

# 平成25年度佐賀県学習状況調査及び全国学力・学習状況調査について

1年生

	分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項
国語	正答率は県平均を下回っており、要努力の生徒の割合も高い。領域別にみると、言語事項の漢字の読み書き、言語に関する知識は県平均とほぼ同じか、上回っている。それ以外の領域は下回っている。全体的に、条件に合わせて書くなど記述の問題の無回答率が高く、書くことに苦手意識を持つ生徒が多いと言える。	➡	引き続き語彙力を高めるために、毎日の漢字の課題と小テストを継続する。「書くこと」については、授業の中で、自分の考えを表現する機会を設け、まず書くこと自体への苦手意識をなくしたい。さらに、新聞のコラム欄などを使って豊かな表現に触れさせることで、自分の考えを表現することへの関心を高めたり、スキル学習を取り入れだりすることで、書く力を伸ばしたい。
社会	「知識・理解」の設問では、おおむね県平均もしくはそれ以上の正答率となっている。しかし、「思考・判断・表現」の設問では、県平均を大幅に下回っており、資料をもとに理由を答える問題の正答率が低くなっている。	➡	授業ではワークシートを活用し、資料をもとにしながら自分の考えを書く時間を設ける。また、グループ活動などを通して、互いの意見を交換するなど、自分の考えをしっかりと持ち、相手に説明する力を育成する。
数学	観点別正答率、内容・領域別正答率ともに県平均とほぼ同じ結果であった。「技能」は県の正答率を上回っているが、「考え方」がわずかに下回っている。「知識・理解」は同じである。問題形式別では、「選択式」「短答式」は同じで、「記述式」が下回っている。	➡	学びあい活動を通して、自分の考えを人に説明する力を身につけさせたい。また、ティームティーチングを活用しての個別支援を継続して行う。文章問題は基本的な問題に数多く取り組ませ、考えを書かせる指導にも力を入れたい。数学的な思考力を要する問題も取り入れていく。
理科	正答率では、十分達成の割合が県よりも少なく、要努力の割合が多くなっている。観点別にみると、「知識・理解」については十分達成できている設問もあり平均的であるが、「思考・表現」の設問で要努力になっているものが多い。問題形式別では記述式の正答率が県平均比べてかなり下回っている。	➡	既習の知識を利用して、科学的に考えて文章で表現することが苦手であるので、用語などの説明文や自分の考えをまとめる練習を繰り返し行う。また、学習事項の理解を進めるために、基礎・基本となる問題から発展へ向けて、段階的に取り組むことが出来るように学習を進める。
意識調査	「将来の夢や目標」に対する意識は高い。家庭学習は取り組んでいるが、内容を見ると課題を行うだけで予習・復習はできていない。自分で計画を立てて学習することができない。休みの日の読書や図書館利用は多いが、学習に生かされていない。生活リズムはとれていうようで、朝ご飯を食べ、夜も早めに休むようにしている。	➡	読書の時間はもちろんのこと普段の生活の中でも、熱心に読書に取り組んでいるので、それを学習面にいかせるように指導する。家庭学習だけで安心している様子が見られるので、学習方法について教科ごとにアドバイスを進める。生活のリズムについては、規則的な生活を送ることができているのでこのまま持続させる。

# 平成25年度佐賀県学習状況調査及び全国学力・学習状況調査について

2年生

	分析結果・課題把握	改善に向けた具体的取り組み事項
国語	<p>正答率は県平均を下回っている。領域別にみると言語事項の漢字の読みは県平均と同じであるのに対し、漢字の書きと話すこと・聞くことは県平均を下回っている。これらは無解答率も高い。全体的に短答、記述の問題は無解答が県平均より多く、誤答の割合も高い。自分の考えや意見・思いついた答えを文字で表現することが苦手な生徒が多いと考えられる。</p>	<p>家庭学習である毎日の漢字の書き取りを継続して行う。「書くこと」への苦手意識を払拭し、自らの考えや思いを表現する力をつけさせるために機会を捉えて短作文を書かせる。作品を読み合うことで適切な表現を知り、自分の表現に生かすことができるように指導する。さらに新聞のコラム欄を活用し、模範となる表現や語句に触れる機会を作ることで、表現力を伸ばしたい。</p>
社会	<p>正答率が、県平均を下回っており、要努力の生徒の割合も県平均に比べて多い。観点別でみると知識・理解、思考・判断の正答率が低くなっている。領域別でみると、歴史的分野の正答率が低く、中世の日本については、極端に正答率が低くなっている。</p>	<p>全体的な正答率を上げるため、電子黒板を活用したフラッシュカードや、基本語句のミニテストをおこなうなど、基礎・基本的な言葉の習得を行う。また、学びあい学習を取り入れ、知識を受け身で習得するのではなく、自主的に学ぶことにより、社会科に対する興味関心を高めるようにする。また、電子黒板を活用し、グラフ等の資料の読み取り方を習得するだけでなく、自ら新たな疑問や問題を発見できるような手立てを行う。そのうえで、自分の考えを文章で表現できるようにし、思考・判断力を高めるようにする。</p>
数学	<p>正答率が、全体、観点別、内容・領域別の全てにおいて県平均を少しずつ上回っている。分布としては、県に比べ平均付近やや上回る生徒が多く、極端に低い生徒も特に高い生徒も少ない傾向にある。正答率と意識調査とのクロス集計においては、宿題、テストの復習、数学に対する好き嫌い、根拠を理解しようとする、などの項目と強い関連性があった。</p>	<p>学びあい学習やチームティーチングを活用して個別支援を継続して行っていくと同時に、到達度に応じた適切な課題を与えて上位の生徒にとってもやりがいのある授業を組み立てていく。また、宿題やテストのやり直しのチェックも細かく行い、やるのが当たり前という意識を高めていく。</p>
理科	<p>学年の平均が県平均をやや下回っていた。分野別でみると、特に物理分野での落ち込みが大きかった。また、到達度でみると、十分達成の生徒が少なく、要努力の生徒が多い。</p>	<p>物理分野での科学的思考力を問う問題に慣れていないように見受けられる。基本的な事項は理解できているようだが応用的な問題が解けていないので、練習問題に取り組み時間を確保していく。</p>
英語	<p>本校の正答率は県平均を上回り、到達度も、十分達成・おおむね達成の生徒が80%を超えた。しかし、理解(読むこと)の正答率が若干県平均を下回っていた。また、疑問文に直す問題、英語の質問に自分自身の答えを書く問題、まとまった英語の文章を読んで答える問題、まとまった文章を書く問題で無回答が10%~25%なので今後の課題である。</p>	<p>今後は、以下の4つのことを継続的に取り入れていく。1 疑問文・否定文の文型を復習する活動 2 疑問文に適切に答える活動 3 まとまりのある文章を読む活動 4 まとまりのある文章を書く活動</p>
意識調査	<p>学校生活は、楽しく落ち着いていると感じ、学校の課題にまじめに取り組む生徒が多い反面、就寝時刻が遅く、学習時間が平日・休日ともに短い生徒が多い。また、授業中での発表の場は少ないと感じている割合が高い。生徒間の話し合い活動はよく行っていると感じている生徒が多いのは学び合い活動を取り入れていることの成果だと考えられる。</p>	<p>家庭学習の習慣化、就寝時刻の見直しなど家庭と協力して取り組む必要がある。また、自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることを苦手としているので、授業の中でこうした場面を増やすことで、積極的に発表する態度も養いたい。</p>

# 平成25年度佐賀県学習状況調査及び全国学力・学習状況調査について

3年生

	分析結果・課題把握		改善に向けた具体的取り組み事項
国語 A	正答率は、全領域とも県平均とほぼ同じであった。問題別にみると、条件に合わせて文章を書く問題、正しい接続詞や敬語を選ぶ問題で正答率が落ち込んでいる。漢字の読み書きの問題はおおむねよくできており、課題への取り組みの成果がみられた。	➡	さらに語彙力を高めるために、漢字の課題と小テストを継続していく。文法や敬語のなど語句の問題については、授業での復習を行った上で演習問題に取り組みさせる。また、日常会話の中での敬語の正しい使用を意識させ、生きる力につなげたい。
国語 B	正答率が全体的に県平均を下回っている。領域別にみると、「読むこと」の領域はほぼ平均と同じであるが、「書くこと」「伝国」の2領域については正答率が低く、特に条件に合わせ、適切な語句を用いて自分の考えを書く問題では無回答が目立った。	➡	発展的な内容の問題に苦手意識を持たないための手立てとして、日常的に目的意識を持った文章を書かせると同時に、新聞コラムの試写と要約を週一回程度実施することで、条件にや場面に即した伝わりやすい文章の書き方を身につけさせる。
数学 A	全体の正答率は県平均をやや下回っている。観点別にみると、数の四則計算、文字式、方程式などの「技能」は高い正答率であるが、知識を応用して答えを導くことが苦手な生徒が多い。また、問題文の読み取り、理解ができていない傾向にある。	➡	授業での演習の時間を多く取り、基本的な学習内容の定着を目指すとともに、上位の生徒には発展的な内容も準備し、数学への関心を高めさせる。また、班での学びあい活動の中で、答えを導くまでの過程を言葉でしっかり説明しあう活動を取り入れる。
数学 B	県平均を下回っており、要努力の生徒の割合が高くなっている。領域別正答率では「数と式」「図形」が県平均をかなり下回っている。特に、数や図形の性質を文字を用いて説明する問題について顕著である。また、記述式の設問に対しては無解答率が高い。	➡	抽象的な概念や図形の問題を考える際に、イメージができない生徒が多いため、数学的活動を取り入れ、抽象化→具体化→抽象化を体験させる場面を多く設定する。また、説明についてはまず「言葉での説明」から「書く」指導にも力を入れる。
理科	正答率は、県の正答率を下回っている。要努力の生徒数の割合が多い。評価の観点では「思考・表現」「知識・理解」で県平均とほぼ同程度であるが、「技能」を問う問題が低い結果となった。内容領域別では「気象とその変化」「電流とその利用」の正答率が低い結果となった。	➡	基礎基本の定着を確実にに行わせる。この基盤の上に、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力等を育むために、観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を充実させる。また、正答率が低かった領域については補充学習等で、克服を図る。
社会	正答率は、県平均とほぼ同じであった。分野別でみると、知識・理解を問う問題は、正答率が県平均よりも上回っており定着している面が多いが、思考・判断では、正答率が大きく下回っている。特に、記述式の問題の正答率が低く、無回答率も多いのが今後の課題である。	➡	ワークなどでの、知識定着は効果を上げている生徒が多いので、今後は小テストも取り入れて一層定着をはかる。社会的事象に対する思考に力を入れるために、新聞記事への意見文や、授業の中で思考判断の場面を仕組んで、考える場面を取り入れる。
英語	本校の正答率は県平均を上回り、到達度も、十分達成・おおむね達成の生徒が80%を超えた。しかし、聞き取り問題に県平均を下回るものがあつた。また、県平均とほぼ同率ではあるが、英語で文章を書く問題無回答が多少目立つので、今後の課題である。	➡	1年次より継続している毎日の課題は語彙力定着に効果をあげていると考えられるので、今後も続けていく。今後は、自己表現の生徒作品を高く評価するなど英文を書くことに対する意欲を向上させたい。また、まとまりのある文章や英語の質問に適切な英語で答えるなどの言語活動も多く取り入れる。
意識調査	「授業での話し合う活動をよく行っている」と答えた生徒が県の正答率を上回っており、学び合いの効果が今後、期待される。しかしながら、「学校の宿題をしている」と答えた生徒は県の正答率を下回っており、家庭学習の充実化が今後の課題である。	➡	授業での学び合い活動を引き続き行い、生徒が難しいと答えている「感想文や説明文を書くこと」に力を入れたい。また、生徒の自主的な活動を促しながら、課題提出に対する意識を高めたい。